

成果報告書

教育研究課題名	宗教とジェンダーおよびマイノリティーに関する研究
---------	--------------------------

1、補助事業の取組状況（500字以内）
<p>【研究活動】所属した人文学部芸術・言語・文化学科主催のものを中心に、マンチェスター大学において開催されるセミナーやワークショップに年間を通じ積極的に参加した。分野は日本学、宗教学、歴史学、社会人類学、社会学など複数にわたった。殊に宗教とジェンダーおよびマイノリティー研究に関するものを多く受講し知見を深めた。また、大学の附属施設になっているマンチェスター博物館、ジョン・ライランズ図書館などで開催された展示や所蔵品に関するセミナー（日本の古資料、LGBTQ関連）にも参加した。さらに、日本学に関連し、The Japan foundation（国際交流基金）が主催する複数の日本文化や日本研究の交流イベントに参加した。またマンチェスターに所在するイングランド教会のチャリティ活動についてフィールド調査を行った。【教育活動】所属学科の研究員、大学院生による研究発表への参加、日本の大学に留学を希望する大学院生の推薦書の執筆などで関与した。さらにマンチェスター大学とロンドン大学SOASで行った研究発表はいずれも公開講座の形態をとり、オンラインを含め、学部生、大学院生が参加した。</p>

2、補助事業の成果（500字以内）
<p>以下5つの原稿執筆や編集および校正に取り組んだ。①南山ライブラリーシリーズGender and Religious Practice in Japan (University of Hawai'i Press)、②「宗教と社会」学会創立30周年特別企画『宗教研究のフィールドガイド』「9 宗教とジェンダー」（法蔵館）、③『宗教社会学事典』「第10章 ジェンダー」（丸善出版）、④『（仮）宗教青年会が挑む世界—神道・仏教・キリスト教・新宗教—』、⑤単著『諸神・諸仏の現来—木曾御嶽講の歴史と信仰』（仮）（岩田書院）③以外はすべて2026年中に刊行予定のものである。また、従来から取り組んでいる山岳や祭礼行事の「女人禁制」研究にちなみ、英国を含め6社の国内外のメディアから取材（オンライン）を受けた。在外研究中に英国内で行った研究発表については、以下の3つである。①Nature and emotions: Mountain worship in Japan (6/4)、②Barriers to Women's Religious Attainment in Japan: Issues and Prospects(10/14)、③The Future of Religion in Japan: Gender and Ritual Perspectives (2/25)。また、南山宗教文化研究所主催「現代修験道研究」においてコメンテータを務めた（オンライン10/8）。これらの研究蓄積をもとに2026年度内にさらに発展的内容の研究発表および論文投稿を行う予定である。</p>

所属	職名	氏名
文学部	教授	小林 奈央子 印